

角膜の濁り、細胞移植で視力回復…京都府立医大

2018年05月28日 10:59 **yomiDr.**

目の角膜が濁って視力が低下する「水疱（すいほう）性角膜症」の患者11人に、他人の角膜の細胞を人工的に増やして移植したところ、全員の視力が改善したと、京都府立医科大などのチームが発表した。3年後をめどに新しい治療法として国の承認を得ることを目指す。

水疱性角膜症は、角膜を透明に保つ働きをする「内皮細胞」が減ることが原因とされる。国内の推定患者数は約1万人で、アイバンクなどから提供された角膜を移植するしか治療法がないが、角膜は不足している。

同大教授の木下茂さんらのチームは2013～14年、米国のアイバンクに提供を受けた角膜から内皮細胞を取り出して培養し、40～80代の患者11人の角膜の内側に注入する臨床研究を実施。2年間の経過観察の結果、全員の角膜の濁りが回復し、矯正視力は平均0.2前後から1.0前後に上昇した。拒絶反応や感染症なども起きなかった。

この手法では1人の角膜から100人の治療に必要な内皮細胞が確保できるという。チームは昨年からは、再生医療製品として国の承認を受けるため臨床試験（治験）を始めており、「角膜移植に代わる治療法にしたい」としている。

<https://news.goo.ne.jp/article/yomidr/world/20180528-052-0YTET50027.html>

YomiDr.